

# 芭蕉句碑裏面に刻まれた十四の句



京王百草園内芭蕉碑

この芭蕉句碑の表には「春もやや <sup>ととの</sup>けしき調ふ 月と梅」の芭蕉の句が刻まれています。<sup>しこうとどき</sup>紫紅十時書とあります。裏面には蕉風の代表的な庵である夜雪庵・<sup>やせつ</sup>十時庵・<sup>とどき</sup>鳴立庵から14人の俳人が集まり、この地を訪れて詠んだ俳句が14句刻まれています。この催しの催主は出月（俳号）で、園内にもう1つある華見塚の碑<sup>みつぼりたけぞう</sup>を建てた三堀武蔵（俳号月華）も句を詠んでいます。碑は神奈川<sup>ひらどせい</sup>県下武蔵国久良岐郡大岡村の平戸清八により明治20年初冬に建てられました。句からは、角蔵のつくった百草園の風雅、風流な様子がうかがわれ、その雰囲気をも今に伝えています。